

## 平成23年度 第1回 物理学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成23年5月12日(木) 午後14時30分から午後16時20分まで
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 藤原雅美委員長、川畑州一副委員長、寺田貢委員、満田節生委員  
徐丙鉄委員、太田雅久委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 配布資料

参考1 「教育を変えるとき」社説(日本経済新聞)2011年4月24日

資料① 「物理学教育における学士力の考察」

資料② 「学士力の実現を目指すICT活用授業の開発モデルの例示(メモ)」

資料③.1 「ICT活用授業モデル(査読後)」

資料③.2・3・4 「ピア・インストラクションを導入した発見的有意味学習」

「学士力の実現を目指す活用授業(物理学実験)」

局長より、参考資料1に対する説明があった。

### V. 議事概要

1. 議事録担当者の指名が行われた。
2. 委員よりだされた「会議で感じたことの整理(2011/02/27)」の説明があった。
3. 学士力実現に必要なICT活用の具体的な検討について

他分野は事例を2つ位に絞っている。物理もそれに見習うことにする。

事務局より、初年度15回だけの授業モデルを示すのではなく、大学4年間を通じて学力向上に役立つ仕組みが入っているように配慮してほしい、との要望があった。

また、授業モデルの提案に関して、具体的な授業内容の検討に力を入れるのではなく、授業の方向性を示すことに力点を置くように変更した。

それでは、各分野の固有性が消えるのではないかとの疑問が出された。

そこは、「物理学的な視点」を取り込むことで解決することとなった。

具体的な検討に入り、②と③を合体させてその中に「態度」と「技能」の概念を盛り込み、①に関しては寺田案を改訂することとなった。

書き方として、余り具体的に書くとアンケートに答えてもらえない可能性があるので、今までの経緯を踏まえて、何故このようなモデルを提案するのか、その背景を示し、モデルはあくまで一例であることが分かるようにすることで合意した。

また、授業のシナリオは社会と関連を持たせるように努力してみることとなった。(可能な限り)

最後に、次回までにすべき事柄を二つ確認した。

(i)②の枠に③で主張している内容を取り入れ、実験と講義を一体化した授業モデルにする。

(ii)①については、本日の議論を踏まえて改訂版を作る。

以上 6 月 14 日までに委員長に提出可能なものにする。

## VI. 次回の開催日程

日時：平成 23 年 6 月 18 日（土） 午後 14 時 30 分から 16 時 30 分

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上。